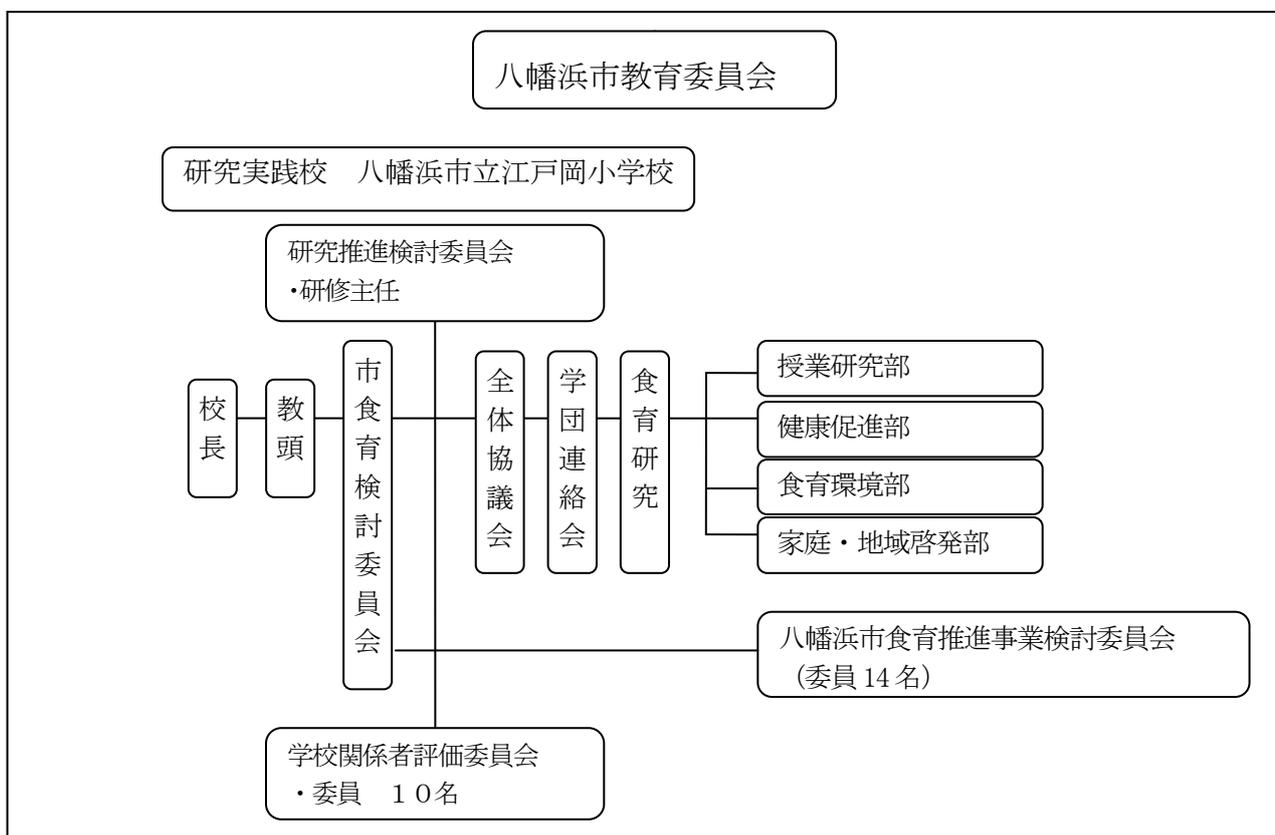


子どもの健康を育む総合食育推進 事業結果報告書

都道府県名	愛媛県
推進地域名	八幡浜市

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1	各教科等における食に関する指導の充実のための取組
1	<p>食に関する年間指導計画の充実 食に関する全体計画及び年間指導計画(道徳の時間・特別活動・総合的な学習の時間等)を児童の実態に沿って見直し、学習したことを出前授業として提供できるよう指導の充実を図った。</p>
2	<p>年間指導計画に基づく実践 年間指導計画に基づいて授業実践を行い、食育ノートに記録を累積した。実践にあたって、授業分析・評価を行い、指導の質の向上に努めた。近隣の小・中学校へも授業案内し、普及・啓発を図ることができた。</p>
3	<p>食育環境の整備と充実 児童の活動が分かるように、学習したことを各教室や階段踊り場、食育ロードに掲示した。また、校内には、学校園等も少なく、それに代わるものとして、プランターを使用し、年間を通し野菜を栽培した。校舎横には、しいたけ置き場(ほだ場)を作り、しいたけも栽培した。</p>



- 4 教職員の資質・能力向上のための研修の充実(先進校視察研修等)
食育理論研修や学校保健会講演会への参加、先進校視察研修を通し、食に関する指導の充実に努めた。
- 5 体力診断と体力向上プログラムの実践
意欲的に運動に取り組んでいこうとする児童を育てるため、新体力テストを全校で実施し、結果について分析を行った。それぞれの児童に新体力テスト結果の推移表やなわとび検定表を持たせて、数値の変化を自覚させ、意欲づけを図った。更に、年間を通した10分間マラソン、なわとびチャレンジを行うことで、体力づくりの大切さを自覚することができた。

テーマ2 家庭・地域への効果的な普及及び啓発のための方策

- 1 PTA親子行事を活用した食体験活動
親子行事での食体験活動を通して、家庭への啓発活動や働きかけを行った。これらの活動により、児童は家庭の手伝いが増え、保護者はバランスのよい食事を作るよう心がけるなど、意識の変容が見られた。
- 2 食育参観日の実施
食に関する学習成果発表の場として、食育参観日を実施した。授業を通して家庭・地域へ効果的な普及・啓発を図ることができた。
- 3 親子行事・参観日等の実施後の意識調査の実施
行事等実施後の保護者や地域の方の意識調査を実施することにより、その取組について検証し、次の指導への改善につなげることができた。
- 4 アンケート調査の実施と分析
食に関するアンケートを実施した。本年度は、近隣の小学校でも同じアンケートを実施し、本校で結果を分析して情報を提供するとともに、本校の実践を伝え、食育に対する意識の啓発をすることができた。
- 5 食育だより「た・つ・や新聞」の発行及び啓発
 - (1) 食育だよりを通して食育に関する情報提供を積極的に行うことにより、家庭での食育を促すことができた。
 - (2) 児童や保護者の食習慣について、アンケート調査を通して、家庭・地域へ効果的な普及・啓発を図ることができた。
- 6 「おやじの会」と連携した料理教室活動
本校の「おやじの会」と連携し、「楽しい食体験」の活動を通して、きれいな食材も食べられるようになった児童がたくさん出てきた。

テーマ3 体験活動をとおした各地域の産物、食文化等の理解を促進するための方策

- 1 森林組合の協力によるしいたけ栽培活動（しいたけ料理）
県の森林林業課の指導を受け、植菌作業、しいたけ栽培に取り組んだ。収穫したしいたけを使っの料理教室等も実施した。
- 2 地域の生産者や農業協同組合を中心とした柑橘学習の実施
児童は八幡浜市の地場産業であるみかんづくりに関して、知識に乏しい面がみられる。そこで、保護者で唯一のみかん農家と連携し、摘果や収穫の体験活動をしたり、JA青年部の話を聞いたりしながら、みかん農家の一年間の体験をした。これにより、ふるさとを見直し、地域産業について理解を深めるとともに、ふるさとを愛する心(愛郷心)が育ってきた。



JA 青年部の方のお話



けずりかまぼこ製造体験

3 地域の生産者を講師とした水産業学習の実施

地場産業である水産業についても、みかんづくり同様、知識に乏しい。養殖場見学、魚市場見学、かまぼこ作り、干物作り、魚を使った郷土料理等を漁業協同組合の方々、水産業者、練物業者の方々の協力を得て体験した。水産業について理解を深め、柑橘学習同様の成果を上げることができた。

4 料理教室の開催(おさかなママさん活用やマナー教室、かまぼこ・干物づくり、しいたけ感謝祭 等)

県森林組合、漁業組合の協力を得て、料理教室を開催した。これらの食体験から、普段、料理をつくって下さる方への感謝の心の育成につなげることができた。

5 グループ栽培の実施

校内に学級園が少なく、運動場にプランターを置いて野菜を栽培した。野菜づくりの苦労や大変さも少しながらわかることができ、野菜を大切に扱うことができるようになった。(食べ残しや好き嫌いも減ってきた)

6 食を通してつながるマナー教室

体験活動の総仕上げとして、高学年は食を通して人とつながる大切さを理解できるように、マナー教室を実施した。マナーが大切な役割を果たすことを学んだ。

テーマ1～3に共通する事業実施の結果

1 市内小学校への普及・啓発

食に関する全体計画及びに各学年の指導計画を市内全小学校に配布したり、3年間の実践を児童が「出前授業」という形で発表したりすることで、市内の各小学校へ食に関して普及・啓発を図ることができた。(年間指導計画に合わせ、要請のあった学校へ、各学年1～2回出前授業を実施した。)



川之石小学校で出前授業をする2年生



日土東小学校で出前授業をする5年生

児童自身は自分たちが3年間学習したことを、出前授業という形で発表することにより、今まで学習してきたことが、より確かな知識として身に付くと同時に、どのように話せば伝わりやすいのか、様々な方法を考え、検討することで、課題

解決の力、表現力が育ってきた。また、授業を受ける側は、同年代の児童からの授業ということで大いに刺激を受け、自分自身の今後の食生活を考える上で、大きな効果をあげることができた。それは、授業後に寄せられたアンケートや作文からも伺うことができた。

2 家庭・地域への啓発

(1) 食育だより「た・つ・や新聞」の発行

食育だよりを家庭や地域、近隣校へ配布することにより、食に対する意識の向上、啓発に役立った。

(2) 食育参観日の実施

食育参観日を実施することで、学校の取組について理解を深め、家庭の協力が得られるようになった。

(3) 八幡浜市子どもの健康を育む総合食育推進事業研究発表会の実施

本校の取組や成果研究を発表する場を設けたことで、さらに普及・啓発を図ることができた。



数字で変化のあった事項について

本校児童の給食の食べ残し量の変化

平成 19 年 10 月平均 6.7 kg → 平成 21 年 10 月平均 1.8 kg

好き嫌いをしないようにしている（本校児童のアンケート調査より）

平成 19 年 7 月 54% → 平成 21 年 6 月 65%

事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

- ・ 出前授業の実施や、食に関する指導計画の配布によって、市内各小学校への食に関する普及・啓発を図ることができた。
- ・ 出前授業の実施により、児童は自分たちが学んだ知識を再度研究・発表していくことで、より確かな知識として、身に付けることができた。また、聞き手に伝わる方法を探っていく中で、課題を解決していく力が育ち、表現力も向上してきた。
- ・ 保護者や地域と連携しながら指導内容の一層の充実を図ることができた。
- ・ 「おやじの会」等諸団体との連携により、「楽しい食体験」を通して、望ましい食習慣の形成につなげることができた。
- ・ 森林組合や漁業組合及び県の関係部局等との連携により、地域の食文化、産業についての理解を深め、食べ物や生産者への感謝の気持ちが育ってきた。
- ・ 休み時間には、児童全員が運動場で元気に遊んだり、自主的になわとびやマラソンに取り組んだりする児童が増えてきた。体力向上に向けて、年間を通して取り組むことにより、児童の体づくりへの意欲化を図ることができた。

今後の課題（今回の調査研究により新たに見えた課題など）

- ・ 今後も、食への感謝、体づくりに継続して取り組み、実践力の向上へと結び付けたい。
- ・ 研究実践校として、食育推進のための実践的な取組・研究を充実させ、推進地域内・近隣の市町への食育普及・啓発を図っていきたい。